

令和
6
年度

いじぶんのあまじ

3

教師用



愛知教育文化振興会
三河教育研究会

もくじ

一 国語じてんの使い方

二 漢字の表す意味

三 慣用句を使う

四 こそあど言葉

五 漢字の読み方

六 俳句に親しもう

七 くわしく表す言葉

八 漢字の組み立てと意味

九 ローマ字

38(1) 28 26 24 20 16 12 10 1

表紙 岡崎

カット

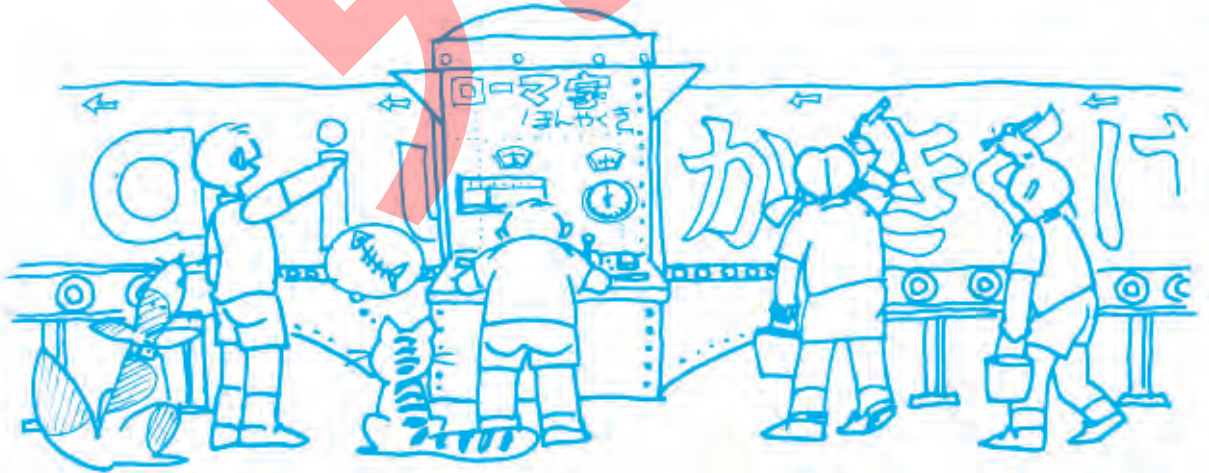
豊川幸
橋橋谷

浅井 優子先生
成田 綾香先生
嶋田 佑子先生
大須賀 貞治先生
中村 僚志先生
河合 桂子先生
伊藤 早紀先生

みなさん、
いっしょに べんきょう
しましょうね。



ことばのきまり
イメージキャラクター
ことちゃん



第三学年 「ことばのきまり」と教科書の関連表

「新しい国語」三年上下 東京書籍（令和六年度版）

| | | ことばのきまり | | | | | | | | | 教科書 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|-----------|--|--|-----------------|--|--|---------|--|--|--------|--|--|------------|--|--|-------------|--|--|---|--|--|-------------|--|--|------------------------------|--|--|
| | | 一 | | | 二 | | | 三 | | | 四 | | | 五 | | | 六 | | | 七 | | | 八 | | | 九 | | |
| | | 国語じてんの使い方 | | | 漢字の表す意味 | | | 慣用句を使おう | | | こそあと言葉 | | | 漢字の読み方 | | | 俳句に親しもう | | | くわしく表す言葉 | | | 漢字の組み立てと意味 | | | ローマ字 | | |
| | | 国語辞典の使い方 | | | 意味の違い 漢字の多義性 | | | 慣用句 | | | 指示語 | | | 音訓 送りかな | | | 三句十七音 季語 | | | 主語（あたま）のかざり 述語（からだ）のかざり 形容詞・形容動詞・副詞 | | | 漢字の構成 部首 | | | 大文字・小文字 長音・拗音・ 拗音長・促音等 | | |
| | | 国語じてんの使い方 | | | 漢字の表す意味 | | | 慣用句を使おう | | | こそあと言葉 | | | 漢字の読み方 | | | 俳句に親しもう | | | くわしく表す言葉 | | | 漢字の組み立てと意味 | | | ローマ字①、② | | |
| | | 上 | | | 上 | | | 上 | | | 下 | | | 下 | | | 下 | | | 下 | | | 下 | | | 上 | | |
| | | 36 | | | 62 | | | 116 | | | 28 | | | 34 | | | 70 | | | 108 | | | 128 | | | 89 | | |
| | | ページ | | | ページ | | | ページ | | | ページ | | | ページ | | | ページ | | | ページ | | | ページ | | | ページ | | |



| 第四学年 | | 第五学年 | | 第六学年 | |
|------|-----------------------------|------|--------------------------------|------|--------------------------|
| 項 | もくじ | 項 | もくじ | 項 | もくじ |
| 一 | 漢字辞典の使い方 | 一 | 一 敬語 | 一 | 一 熟語の構成 |
| 二 | ことわざ・故事成語を使う | 二 | 二 漢字の成り立ち | 二 | 二 文と文のつながり つなぐ言葉の使い分け |
| 三 | 文の組み立てと修飾語 | 三 | 三 いにしえの言葉に親しもう いにしえの人のえがく世界 | 三 | 三 漢文に親しもう |
| 四 | つなぐ言葉 | 四 | 四 思考に関わる言葉 | 四 | 四 場面に応じた言葉づかい |
| 五 | じゆく語の意味 | 五 | 五 どうやって文をつなげれば いいの？ | 五 | 五 複合語 |
| 六 | 百人一首に親しもう | 六 | 六 熟語の構成と意味 | 六 | 六 似た意味の言葉の使い分け |
| 七 | 同じ読み方の漢字 | 七 | 七 和語、漢語、外来語 | 七 | 七 表現をくふうする |
| 八 | かなづかい | 八 | 八 日本語と外国語 | 八 | 八 六年間の復習 |
| 九 | 文末の言い方 | 九 | 九 方言と共通語 | | |
| 十 | 伝わりやすい文 | | | | |
| 十一 | ローマ字の書き方 | | | | |
| | 部首索引 | | 尊敬語・謙讓語 丁寧語 | | 熟語 |
| | ことわざ 故事成語 | | 象形文字 指事文字 会意文字 形声文字 | | 指示語 |
| | 主語・述語・修飾語 | | 古文 | | 接続語 |
| | 文と文の接続関係 接続詞 接続助詞 | | 文末表現 | | 敬語 |
| | 熟語 | | 接続語 | | 複合語 |
| | 五句三十一音 百人一首 | | 和語、漢語、 外来語 | | 類義語 |
| | 同音の漢字 同訓の漢字 同音異義語 | | 語順 | | 比喩・反復・倒置 |
| | じ・ぢ・ず・づ 現代かなづかい | | 方言・共通語 | | |
| | 文末表現 | | | | |
| | 漢字かな交じり文 読点 | | | | |
| | 大文字・小文字 長音・拗音 拗音長・促音等 | | | | |



まとめのテスト

(使い方)

- 長期の休みに入る前の時期に、まとめのテストを実施する。
- 実施する頁を増し刷りして、使用する。
- 児童に自己採点させたり、教師が採点したりして、評価する。
- 定着が不十分なら、振り返って学習する。

三年まとめのテスト② (P12～P23)

- 漢字の読み方に気をつけて、送り仮名をつけましょう。
- 荷物()が重()い()。
- 本を重()ねる()。
- 人が通()る()。
- 学校に通()う()。
- 言葉が通()じる()。
- 二 次の言葉は、どの言葉を描いているでしょう。
- (一) 向こう大きな音がした。それを聞いた店の人たちは、急いで外に出た。()
- (二) つくえの上にノードがあります。それをとってください。()
- (三) 「空を丸いものごとんているよ。丸いもの、刺れはいたい何かな。」丸いもの、かぼちやがとれました。これをおみやげに持っていきよう。()
- (四) かぼちやがとれました。これをおみやげに持っていきよう。()
- (五) ききのう、プールに行きました。そこで友だちに会いました。()

※各五点

点

- 三 次の言葉の意味に合うように、□の中に人間の体の部分の指す言葉を入れましょう。
- (一) 長い時間夢いたり立ったりして、足がびくびくつかれること。 足
- (二) ひじょうにいそがいこと。 目が回る
- (三) 聞きもちがいてはないかと思うこと。 耳をうたがう
- (四) やらなければいけないこと。 手をぬく
- (五) いいかげんにすること。 口がすべる
- 四 次の言葉は、どの言葉を描いているでしょう。
- (一) 赤い()。ふうせんが()ふわふわからえらんで書きましよう。()
- (二) ()はげしい。雨()が()ふっている。()
- (三) ()さわやかな。風が()。()

ザーザー 赤い はげしい ふわふわ さわやかな

三二七

三年まとめのテスト① (P1～P11)

- 一 次の言葉について国語じてんにならんでいるじゆんに番号をつけましよう。
- (一) あめ()
- (二) かも()
- (三) さめ()
- (四) しいたけ()
- (五) シーソー()
- (六) ひよう()
- (七) ひよう()
- (八) びよう()
- (九) びよう()
- (一〇) びよう()
- (一一) びよう()
- (一二) びよう()
- (一三) びよう()
- (一四) びよう()
- (一五) びよう()
- (一六) びよう()
- (一七) びよう()
- (一八) びよう()
- (一九) びよう()
- (二〇) びよう()
- (二一) びよう()
- (二二) びよう()
- (二三) びよう()
- (二四) びよう()
- (二五) びよう()
- (二六) びよう()
- (二七) びよう()
- (二八) びよう()
- (二九) びよう()
- (三十) びよう()

※各五点 (二は定答)

名前

三六

三年まとめのテスト③ (P24～P38)

- 一 俳句について答えましよう。
- (一) 俳句は(五・七・五)の十七音でまげんされるのがふつうです。
- (二) 俳句は季節をしめす(季語)を入るといふ決まりがあります。
- 二 次の俳句の音の区切りをて分けてましよう。
- (一) 夏草やつわものどもが夢のあと
- (二) 朝顔にうるべとれどもらいたい水
- 三 次の俳句の音の区切りをて分けてましよう。
- (一) 夏草やつわものどもが夢のあと
- (二) 朝顔にうるべとれどもらいたい水
- 四 次の部首の名前を書き、その部首がつく漢字を一つ書きましよう。
- (一) 頁(おがひ) 願(ねがひ) 頭(かぶ) 顔(かほ)
- (二) しん(しん) 通(と) 近(ちか) 通(と)
- (三) う(う) かん(かん) 家(か) 室(むろ)

※各五点

点

- 五 次のローマ字を読んで、()の中にひらがなで書きましよう。
- (一) onpu (おんぶ)
- (二) ginmedaru (ぎんめだる)
- (三) Kintarou (きんたろう)
- 六 次の言葉はローマ字で書きましよう。
- (一) ちやわん tyawan(chawan)
- (二) おばあさん obasan
- (三) きって kitte
- (四) パンヤ pan'ya



三年まとめのテスト① (PI) (PII)

※各五点 (二は完答)

名前

点

一 次の言葉について国語じてんにならんでいるじゆんに番号をつけましょう。

- | | | | |
|-----|----------|-----|---------|
| (一) | あめ () | (二) | バス () |
| | かめ () | | はす () |
| | さめ () | (四) | さつき () |
| (三) | しいたけ () | | さつき () |
| | しいかい () | | |
| | シーソー () | | |
| (五) | びよう () | | |
| | ひよう () | | |
| | びよう () | | |

二 次の——の言葉の意味を国語じてんで調べます。じてんをひくときの形に直しましょう。

- (一) ぼくは、水ぞくかんに行ききたい。 ()
- (二) わたしは、一年生にやさしく話しかけた。 ()
- (三) きゆうに教室がしずかになった。 ()
- (四) この本は、むずかしそうだ。 ()

三 国語じてんで の言葉を調べたら、下の のような意味が分かりました。あとの①～③の文では、どの意味で使われていますか。一つずつえらんで () に書きましょう。

かける

- ア 上から下にさげる。
イ かけ算をする。
ウ きかいを動かす。

- ① 四に五をかける。 ()
- ② かたに水とうをかける。 ()
- ③ 車のエンジンをはかける。 ()

四 の中にある次の の漢字はどのような意味で使われているでしょうか。意味のちがいによって分けましょう。

- (一) 着 着る ()
- 着 着る ()
- 着 着る ()
- 着 着る ()
- 着 着る ()

- (二) 金 金 ()
- 金 金 ()
- 金 金 ()
- 金 金 ()

- 金メダル 金がく 集金 金のゆびわ



三年まとめのテスト② (P12 ~ P23)

※各五点名前

点

一 漢字の読み方に気をつけて、送りがなをつけましょう。

三 次の言葉の意味に合うように、の中に人間の体の部分
分を指す言葉を入れましょう。

(一) 荷物が重 ()
本を重 ()

(一) 長い時間歩いたり立ったりして、
足がひどくつかれること がぼうになる

人が通 ()

(二) ひじょうにいそがしいこと が回る

(二) 学校に通 ()

(三) 聞きちがいではないかと思うこと をうたがう

言葉が通 ()

(四) やらなければいけないことを、
いいかげんにすること をぬく

二 次の——の言葉は、どの言葉を指しているでしょう。

(五) 言っではいけないことをつい
うっかりしやべってしまうこと がすべる

(一) () に書きましょう。

(一) 向こうで大きな音がした。それを聞いた店の人たちは、急いで表に出てきた。()

四 次の () にあてはまる言葉を、それぞれ

(二) つくえの上にノートがあります。それをとってくだ
さい。()

(三) 「空を丸いものがとんでいるよ。」「あつ、ほんとう。
あれはいったい何かな。」()

(四) かぼちやがとれました。これをおみやげに持ってい
こう。()

(五) きのう、プールに行きました。そこで友だちに会
いました。()

(一) () ふうせんが () とんでいる。
(二) () 雨が () ふっている。
(三) () 風がふく。

ザーザー 赤い はげしい ふわふわ さわやかな



三年まとめのテスト③ (P24 ~ P38)

※各五点
名前

点

一 俳句について答えましょう。

(一) 俳句は (. . .) の十七音で表げんされるのがふつうです。

(二) 俳句は季節をしめす () を入れるとう決まりがあります。

二 次の俳句の音の区切りを — で分けましょう。

(一) 夏草やつわものどもが夢のあと

(二) 朝顔につるべとられてもらい水

四 次の部首の名前を書き、その部首がつく漢字を一つ書きましょう。

部首の名前

漢字

- | | | | | |
|-----|---|-----|---|-----|
| (一) | 頁 | () | ・ | () |
| (二) | 之 | () | ・ | () |
| (三) | 宀 | () | ・ | () |

五 次のローマ字を読んで、() の中にひらがなで書きましょう。

- (一) onpu ()
- (二) ginmedaru ()
- (三) Kintarô ()

六 次の言葉をローマ字で書きましょう。

- (一) ちやわん

- (二) おばあさん

- (三) きって

- (四) パンや

三 次の俳句にえがかれている季節はいつでしょう。 — の部分を手がかりにして () の中に季節を書きましよう。

- (一) ひまわりや 青空高く のびていけ ()
- (二) 入学式 はじまる前の しんこきゆう ()
- (三) ポケットに ドングリいっぱい 大富ごう ()





一 国語じてんの使い方【教科書(上) P36~P37】

※国語辞典の使い方を学び、一人で使えるように継続的に指導する。

国語じてんは、

- ① 言葉の意味
- ② 漢字を使った書き表し方
- ③ 言葉の使い方

などが分かります。

「く」で始まる言葉が集められているところ

このページには、「くかん」から「くき」までの言葉がのっている。

ことわざや慣用語がのっていることもある。

くかんーくき

くかん【**区間**】道路や線路で、ある地点との間。(例)一部の区間が運休になった。

くき【**茎**】植物のじくで、葉や花などをつける部分。(例)養分や水分の通り道になっている。

くぎ 板などをとめたり、つないだりするために打ちこむ先のがった物。

●くぎを刺す まちがいのないようには、はつきり念をおす。(例)ちこくしないようにくぎをさす。

くぎづけ【**くぎ付**】

- ① くぎをうちつ
- ② その場所から

くぎぬき【**くぎ抜**】

をぬきとるため

くきよう【**苦境**】

うぐう。

くぎり【**区切り**】

- ① ものごとの切
- ② 詩や文章の切

言葉の使い方

言葉の意味

漢字を使った書き表し方



ことば
言葉のならば方



① 国語じてんは、言葉が五十音じゅん

(あいうえおじゅん) でなっています。

↓じてんの横には目じるしがついています。

目じるしを目やすに、調べたい言葉の一文

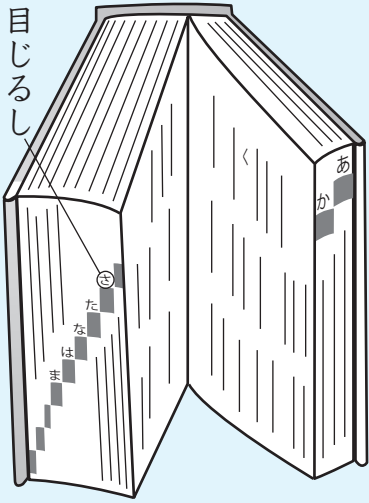
字目のだいたいのページを開きます。

早く調べるじゅもん(目じるしじゅん)

あ・か・さ・た・な・は・ま・や・ら・わ

↓二文字目、三文字目をあいうえおじゅんに

たどります。



※確かめた言葉には、付箋を付けたリ、マーカーで線を引くなどして、調べた印を残すとよい。

(一) 「くき」の意味を国語じてんを使って調べましょう。

1 一文字目は

く

2 目じるしは

か

のまん中あたり。

3 二文字目は

き

あいうえおじゅんで前の方

くき
植物のじくで、葉や花などをつける部分。養分や水分の通り道になっている。

見てみよう



「国語じてんの使い方」



多くの国語じてんには、次のようなきまりがあります。

② 清音（カ・サ・タ・ハ行）

だく音（ガ・ザ・ダ・バ行）

半だく音（パ行）

のじゅんにならないでいます。

③ かたかなの長音を表す「ー」は、

「チーム」↓「ちいむ」のように、

「ー」の、前の音を長くのばした

ときの「あ・い・う・え・お」に

おきかえてならべてあります。

④ 小さく書く「っ」や「や・ゆ・よ」は、

ふつうに書く字の後にならんでいます。

※実際に意味調べをする時につまづきやすいポイントなので、
国語辞典を使いながら一緒に確かめるとよい。

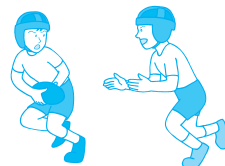
(二) 国語じてんに出てくるじゅんに、1、2、3の

番号をつけましょう。

(3) パス

(2) バス

(1) はす



(三) 次の言葉の「ー」を「あ・い・う・え・お」に

おきかえて、国語じてんをつかって意味を調べま

しょう。
スピーチ ↓ すび いち

意味
人前で話す短い話やあいさつ

プール ↓ ぶうる

意味
コンクリートなどでまわりをかこって
作った水泳場



(四) 国語じてんに出てくるじゅんに、1、2の番号をつけましょう。

1
(2) (1)
() ()
さつき さつき

2
(1) (2)
() ()
きよう きよう

(五) 国語じてんに出てくるじゅんに、番号をつけましょう。

1
(1) (2) (3)
() () ()
あき なつ はる

2
(3) (2) (1)
() () ()
テント てんけん てんき

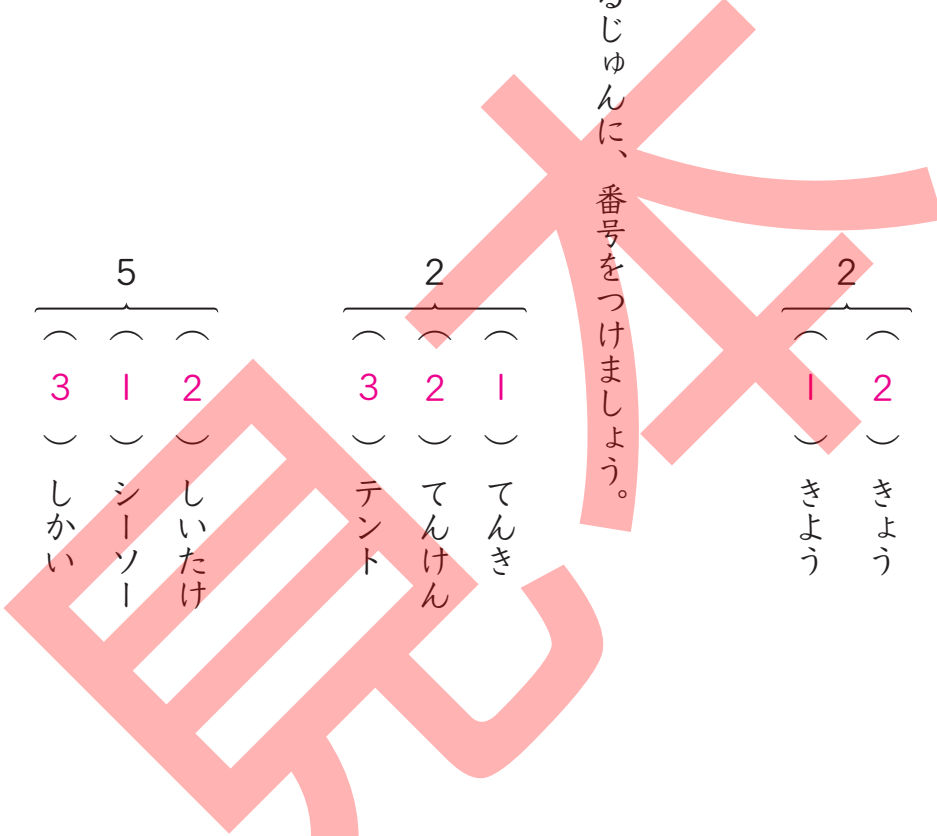
4
(1) (2) (3)
() () ()
かく かぐ がく

5
(3) (1) (2)
() () ()
しかい シーソー しいたけ

6
(4) (2) (1) (3)
() () () ()
びよう ひよう ひよう びよう

3
(2) (3) (1)
() () ()
ボール ポール ホール

3
(1) (2)
() ()
りゆう りゆう



形をかえる言葉 ことば



※動きや様子を表す言葉は、後に続く言葉によって形が変わることを理解させる。

日本語には、形のかわる言葉があります。
 たとえば、「飲む」という言葉は、後に続く言葉によって文の中で「飲まない」「飲みます」「飲めば」というように形をかえて使われます。
 国語じてんを使うときには、形のかわる言葉は「言い切りの形」に直します。
 ① 動き（動作）を表す言葉は、ウ段の音（「く・る・ぶ」など）で終わる形に直します。
 ② 様子を表す言葉は、「い」や「だ」で終わる形に直します。

(一) でかこまれた言葉の中で、国語じてんにのっている言葉を一つえらんで○をつけましょう。

- 1
- () ぼくは、水を飲まない。
 - () ぼくは、水を飲みたい。
 - (○) ぼくは、水を飲む。

- 2
- () 空が青くて、きれいだ。
 - (○) 空が青い。
 - () 空が青かった。





() わたしは、ごはんを**食べる**。

() わたしは、ごはんを**食べた**。

() みんなものこさず**食べよう**。

() 目と**じれば**思い出す。

() 目と**とじる**。

() 目と**とじろ**。

() **かばんが軽い**。

() **かばんが軽くなる**。

() **かばんが軽ければ**持てる。

() **きれいな人**がいる。

() **ぼくは**くつを**きれいに**した。

() **この花は**きれいだ。

様子ようすを表す言葉あらわの中で、言い切りの形が「**だ**」になる言葉ことばを国語こくごしてんで調しらべるときは、

注意ちゅういがひつようです。

〈**れい**〉

外ほかはとても **しずかに** になった。

しずかに ↓ ×

しずかだ ↓ ×

しずか ↓ ○

言い切りの形「**だ**」に直して、「**だ**」をのぞいた言葉ことばで調しらべます。



(二) 次の——の言葉を国語じてんをひくときの形に直しましょう。

※国語辞典で意味を調べさせて、言い切りの形で書かれていることに気づかせる。

〈れい〉 ぼくたちは、お父さんをいつまでも見送りました。

1 お姉さんは、図書館に行きました。

2 男の人が「あそこに人がいるぞ。助ける。」と消ぼうしにさげんだ。

3 おばさんの作ったりよう理は、とてもおいしかった。

4 どの本も全部おもしろそうだ。

5 あちらの部屋からにぎやかな話し声が聞こえてきた。

6 友だちには親切にしよう。



() 見送る ()

() 行く ()

() 助ける ()

() おいしい ()

() おもしろい ()

() にぎやか ()

() 親切 ()

※5・6では、前ページの青枠の内容を確かめるとよい。



ことば
言葉のえらび方

日本語には、発音が同じ言葉でも意味のちがう言葉があります。

〈れい〉
あめ
あめ
雨(あめ)



(一) 次の文の「あう」はどちらの漢字を入れるとよいでしょう。国語じてんで調べて○をつけましょう。

・わたしは、ひさしぶりに友だちとあうやくそくをした。

合う ()
会う (○)

ことば
言葉の前後の文を読み、いちばん合う意味をえらぶよ。



一つの言葉に、たくさんの意味がある場合があります。言葉の前後の文を読んでいちばん合う意味をえらびましょう。

(二) 次の文の——の言葉を国語じてんで調べたら、下の

のような意味があることがわかりました。どの意味で使われているか一つえらびましょう。

・わたしの姉は、細かい心づかいのできる人です。

(③)

- ① 非常に小さい
- ② くわしい
- ③ 心が行きとどく、よく気がつく
- ④ けちくさい
- ⑤ 大したことではない

※国語辞典では、基本的な意味やよく使われる意味が先に載っている。



(三) 次の文の中で、
——の言葉の意味を国語じてんを使って調べましょう。

※意味が二つ以上あるものについては、文脈から正しい意味を選ばせる。

1 うきうきする音がながれ、あたりはまぶしく光ります。

光がきらきらしてよく見えない。

2 まわりの色がへんかするにつれて、体の色がかわっていくこん虫もいます。

様子やせいしつなどが、かわっていくこと。

3 コノハチヨウの羽は、表はあざやかな青とオレンジ色です。

明るくはっきりしているようす。

4 つばみさんが、首をかしげていると、むすめは言いました。

ななめにする。かたむける。

意味がたくさんあるものは、いちばん合う意味をえらぼう。





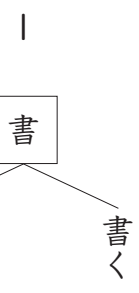
二 漢字の表す意味

【教科書（上） P62～P63】

※ことばの意味を一つ一つおさえることで、——の漢字の意味を考えさせるとよい。

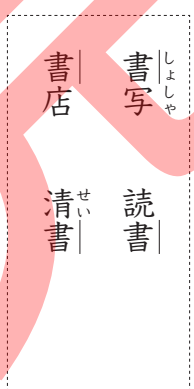
一つの漢字が、いくつかの意味を表すことがあります。たとえば「一等」の「等」は、「もののじゆん」を表し、「平等」の「等」は「同じ」という意味を表しています。

(一) の中にある次の漢字はどのような意味で使われているでしょうか。意味のちがいによつて分けてみましょう。



(読書、書店)

(書写、清書)

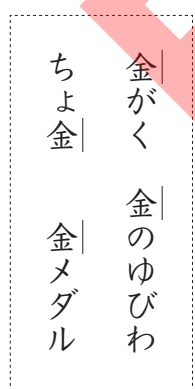


黄 金

お 金

(金のゆびわ、金メダル)

(金がく、ちよ金)



調べてみよう 

漢字ペディア
「漢字一字」



(二) 次の□の漢字をふくんだ言葉は、それぞれどんな意味を表しているでしょうか。あてはまる意味を下

からえらんで線でむすびましょう。

| | | |
|---------|-----|-----|
| 5 | 3 | 1 |
| □ | □ | □ |
| 一回 | 着物 | 通路 |
| 回転 | 着せき | 通学 |
| 回数 | 着く | 通う |
| 回る | 着る | 通る |
| 6 | 4 | 2 |
| □ | □ | □ |
| 足もと | 両親 | 行動 |
| まん足 | 親友 | 行進 |
| 足りていること | 親 | 行なう |
| 足 | 親しい | 行く |





三 慣用句を使う

【教科書(上) P116 ~ P119】

※慣用句について理解を深め、自分の表現に役立てようとする気持ちを持たせる。

二つ以上の言葉がむすびついて、とくべつな意味を表す言い方を慣用句といいます。
(「美しい」顔 + 広い ↓ 「顔が広い」 (意味) 知り合いが多い。

(一) 次の○に、図にある体の部分を指す言葉を入れ、つづけて読みましょう。



さんこうにしよう



「ことわざ・慣用句の百科事典」



(二) 次の文の——の部分^{ぶぶん}を言いかえると、のどの慣用句^{かんようく}になるでしょう。() に書きましょう。

1 遠足で十キロも歩くと、足がひどくつかれるだろうな。

足がぼうになる

2 しなければいけないことをいいかげんにやるのは、いけないことだ。

手をぬく

口がすべる

3 お母さんには、ないしよにするつもりなのに、いつもいつっかりしやべってしまふ。

頭が下がる

4 毎朝、家から駅^{えき}までのそうじをしている人を見かけるが、私は心^{かんしん}から感心^{かんしん}してりっぱだと思ふ。

耳をうたがう

5 もし、写生会^{しゃせいかい}入せん者^{しん}に自分の名前がよばれたら、聞きちがいではないかと思ふにちがいない。

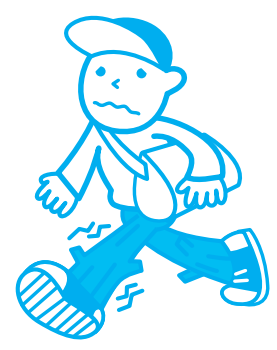
頭が下がる

手をぬく

口がすべる

足がぼうになる

耳をうたがう



(三) 次の慣用語の意味は下のどれになるでしょう。線でむすびましょう。

- 1 さじを投げる
 - 2 水に流す
 - 3 手も足も出ない
 - 4 火に油を注ぐ
 - 5 舌をまく
 - 6 目がない
- どうにもできないこと。
 みこみがないとあきらめる。
 いきおいの強いものに、さらにいきおいを加える。
 たいへん好きなこと。
 前にあつたふゆかいなことをなかつたことにする。
 たいへんおどろいたり、感心したりする。

(四) いろいろな慣用語とその意味について調べ、表にまとめましょう。

※動物や植物などグループを指定してもよい。

| 慣用語 | 意味 |
|-----------|--------------------------------|
| 〈例〉話に花が咲く | 〈例〉次から次へきょうみがある話が出てきて会話がはずむこと。 |
| 〈例〉たぬきね入り | 〈例〉ねむっているふりをする事。 |



ちょうせんしてみよう

「ことわざ・慣用語四択クイズ100」



(五) 次の慣用語の意味を調べ、それを使った短文を作りましょう。

1 歯を食いしばる

※文末を変えて書いてもよいことを指導する。

意味

苦しさをやくやしさをけんめいにこらえる。

短文

〈例〉ぼくは、マラソン大会で転んだが、歯を食いしばって最後まで走った。

2 耳をかたむける

意味

熱心に聞く

短文

〈例〉わたしたちは、友だちの発表に耳をかたむけた。



四 **こそあど言葉**ことば

【教科書（下）P28～P29】

※指示語の働きについて理解させる。

(一) 男の子が、女の子に何か言っています。それぞれの絵が、どんな話をしているか、線でむすびましょう。



このねこ、
かわいいだろう。

そのねこ、
かわいいね。

ぼくんちのねこは、
あのねこだよ。

きみんちのねこ、
どのねこのなの？



(二) 友だちと動作をつけて次のようなげきをして、「こそあど言葉」について考えてみましょう。

※遠近関係を表す指示語を理解させる。

あつし 「あつ、あそこにせみがいるよ。」

みどり 「どこ。ね、どこにいるの。」

あつし 「あの木の、ほら、上のところ。」

みどり 「ああ、あそこね。」

あつし 「きみの持っているそのあみでとろうよ。」

みどり 「このあみで、とどくかしら。」



「こ、そ、あ、ど」で始まる、ものごと・場所などを指ししめすはたらきをする言葉を「こそあど言葉」といいます。

①この・これ・ここ・こちら・こんな……自分の近くにあるものや場所。

②その・それ・そこ・そちら・そんな……相手の近くにあるものや場所。

③あの・あれ・あそこ・あちら・あんな……自分からも相手からも遠くにあるものや場所。

④どの・どれ・どこ・どちら・どんな……いくつがある中ではつきりわからないものや場所。





「こそあど言葉」は、文の中で前に出たものを指すときにも使います。

〈れい〉母が、プリンを作ってくれました。これはわたしの大こう物です。

※「これ」は、「プリン」を指しています。

(三) ——— の言葉は、何を指しているのでしょうか。() の中からえらんで ○ でかこみましょう。

1 向こうで大きな音がした。それを聞いた店の人たちは、急いで表に出てきた。

(向こう ・ 音 ・ 店の人たち ・ 表)

2 つくえの上にえんぴつがあります。それを取ってください。

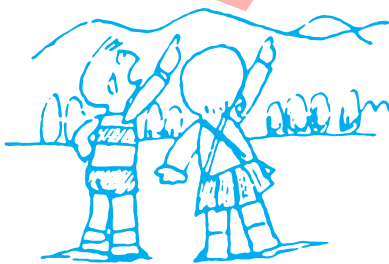
(つくえ ・ 上 ・ えんぴつ)

3 「空を丸いものがとんでいるよ。「あつ、ほんとう。あれはいったい何かな。」

(空 ・ 丸いもの ・ いったい)

4 花がさいている。これを妹にプレゼントしよう。

(花 ・ 妹 ・ プレゼント)



「ねえ、ちかちゃん、ちよつと見て。」

あきちゃんは、※葉だけでも可。一まいの葉をわたしに見せました。その上には、**よう虫**がいました。

「これは何かなあ。」

と、わたしが聞くと、あきちゃんは、

「たぶん、黒アゲハのよう虫だと思うよ。」

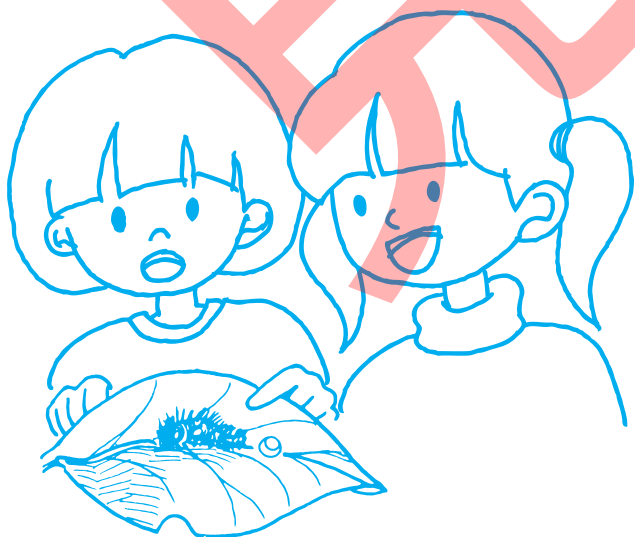
と言いました。よう虫は、**葉っぱ**の上でじっとしています。体は、黒に白のまだらもようで、五ミリぐらいでした。あきちゃんは、**虫かご**に、よう虫のついている**葉っぱ**を入れて、

「この中で、チョウになるまでそだ育ててみるよ。」

と言いました。

(四) 上の文しよの中ことばから、「こそあど言葉」を三つさがして——を引きましょう。

(五) (四)で——を引いた「こそあど言葉」は、何を指さしているのでしょうか。指さしている言葉ことばを○でかこみ、「こそあど言葉」と線ことばでむすびましょう。





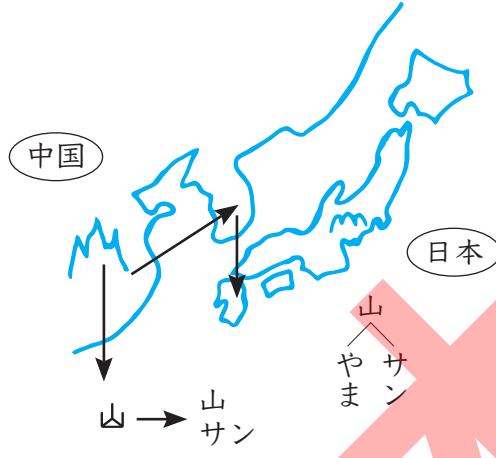
漢字の音訓

五 漢字の読み方

【教科書(下) P34~P35】

今からおおよそ千五、六百年くらい前に、中国から日本へ漢字が伝わってきました。「山」「火」「川」を「サン」「カ」「セン」と読むのは、漢字が伝わってきたときの、中国の発音をもとにしたものです。

また、日本には、漢字が伝わる前から「やま」「ひ」「かわ」という言葉があったので、同じ意味を表す「山」「火」「川」という漢字をあてはめて読みました。



山に登ることを中国人は「登山」と書き、「トザン」と読んでいたのです。それを日本人が「山登り」と読みかえていったのです。また、漢字の成り立ちを知って、「峠」(とうげ)のように日本で作られた漢字もあります。

「サン」・「カ」・「セン」 || 中国から伝わった読み方 ↓ 「音」
「やま」・「ひ」・「かわ」 || 日本の言葉をあてはめた読み方 ↓ 「訓」



※このマークのところは、単元のオリエンテーションとして扱い、一人て学習するところです。



次の——をつけた漢字に読みがなをつけましょう。

※漢字辞典では、音読みはかたかなで、書かれていることを指導するとよい。訓読みはひらがなで

1 あの山は、ふじ山だ。
(やま) (さん)

2 金曜日にお金をはらう。
(きん) (かね)

3 花びんの中の美しい花。
(か) (はな)

4 遊園地で遊ぶ。
(ゆう) (あそ)

5 かぶと虫のよう虫。
(むし) (ちゅう)

6 「火の用心」、マッチ一本火事のもと。
(ひ) (か)

(一) 右のそれぞれの漢字は、一文字で何通りもの読み方をします。次の漢字はどうでしょう。教科書や

じてんなどで読み方を調べ、音はかたかなで、訓はひらがなで書きましよう。

| 漢字 | 音 | 訓 |
|----|-----|------|
| 湯 | トウ | ゆ |
| 場 | ジヨウ | ば |
| 炭 | タン | すみ |
| 体 | タイ | からだ |
| 目 | モク | め |
| 音 | オン | ね おと |
| 氷 | ヒヨウ | こおり |



(二) 次の漢字に読みがなをつけましょう。音読みするものはかたかなで、訓読みするものはひらがなで書きましょう。

| | |
|------------|----------|
| 1 | |
| 空 (クウキ) | 空 (そら) |
| 客船 (キヤクセン) | 船 (ふね) |
| 2 | |
| 兄弟 (キョウダイ) | 弟 (おとうと) |
| 3 | |
| 左右 (サユウ) | 左 (ひだり) |
| 4 | |

「空」の場合、「クウ」と音読みすると、意味が分かりませんが、「そら」と訓読みすると、意味がよく分かります。

「船」「弟」「左」なども、音では意味が分かりにくいですが、訓だとすぐに意味が分かる漢字です。

(三) 教科書やじてんなどを見て、次の音訓表をうめましょう。どちらか一方しかない場合は、×をつけましょう。

| 訓 | 音 | 漢字 |
|-----|----|----|
| はこ | × | 箱 |
| はたけ | × | 畑 |
| さら | × | 皿 |
| × | カン | 感 |
| × | イ | 意 |

※表の結果に関心を持たせる。

音だけの漢字は、中国から伝わってきて、そのまま使われているもので、訓だけの漢字は、日本で作られたものです。

(四) 次の言葉を、送りがなに気をつけて漢字で書きましょう。

| | | | | |
|------|------|------|----|-----|
| 1 | | この道は | | ほそい |
| きまりが | こまかい | 細 | い | |
| 2 | | 洋服を | | きる |
| 船が港に | つ | 着 | る | |
| 3 | | 夜が | | あける |
| 部屋が | あかるい | 明 | ける | |
| | | 明 | る | |



「細」という漢字は、「ほそい」「こまかい」のように、訓読みがいくつかあります。「細い」「細かい」を引いた送りがなは、「細」の読み方や意味をはっきりさせるはたらきがあります。

(五) 漢字の読み方に気をつけて、送りがなをつけましょう。

| | | | | |
|------|------|--------|--|---|
| 1 | | サケが川を上 | | る |
| 花火が上 | | | | |
| 2 | | 荷物が重 | | い |
| 本を重 | | | | |
| 3 | | 人が通 | | る |
| 言葉が通 | 学校に通 | | | |
| | | | | |





六 俳句に親しもう

【教科書(下) P70～P75】

※俳句を声に出して味わわせる。

俳句は、五・七・五の十七音で表げんされるのがふつうです。世界で一番短い定型詩(決まった形のある詩)です。俳句は江戸時代に入ってさかんになりました。また、俳句には、季節をしめす「季語」を入れるというきまりがあります。

※字余りや複数の季語があるが、俳句の作品には字余りのものがあることや、本来なら季語はひとつであることにふれておく。

(一) 次の俳句の音の区切りを—で分け、声に出して読んでみましょう。また、()に、—をひいた季語の季節を書きましよう。

(春)

1 雪とけて村一ぱいのこともかな

(夏)

2 夏草やつわものどもが夢のあと

(秋)

3 一枚の紅葉かつ散る静かさよ

(冬)

4 スケートのひもむすぶ間もはやりつつ

(小林一茶)

(松尾芭蕉)

(高浜虚子)

(山口誓子)



見てみよう



NHK for School

おはなしのくにクラシック
「雪とけて～俳句①春・夏～」



NHK for School

おはなしのくにクラシック
「柿食えば～俳句②秋・冬～」



(二) 次の俳句は、小学生の友だちの作品です。俳句にえがかれている季節はいつでしょう。 ———— の部分を

手がかりにして（ ）の中に季節を書きましよう。

1 ひまわりや 青空高く のびていけ (夏)

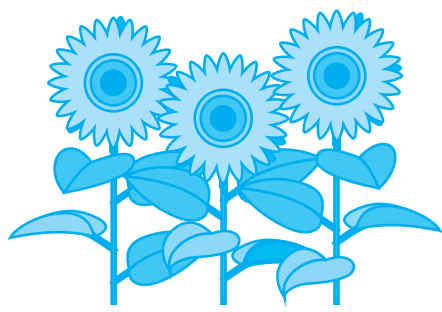
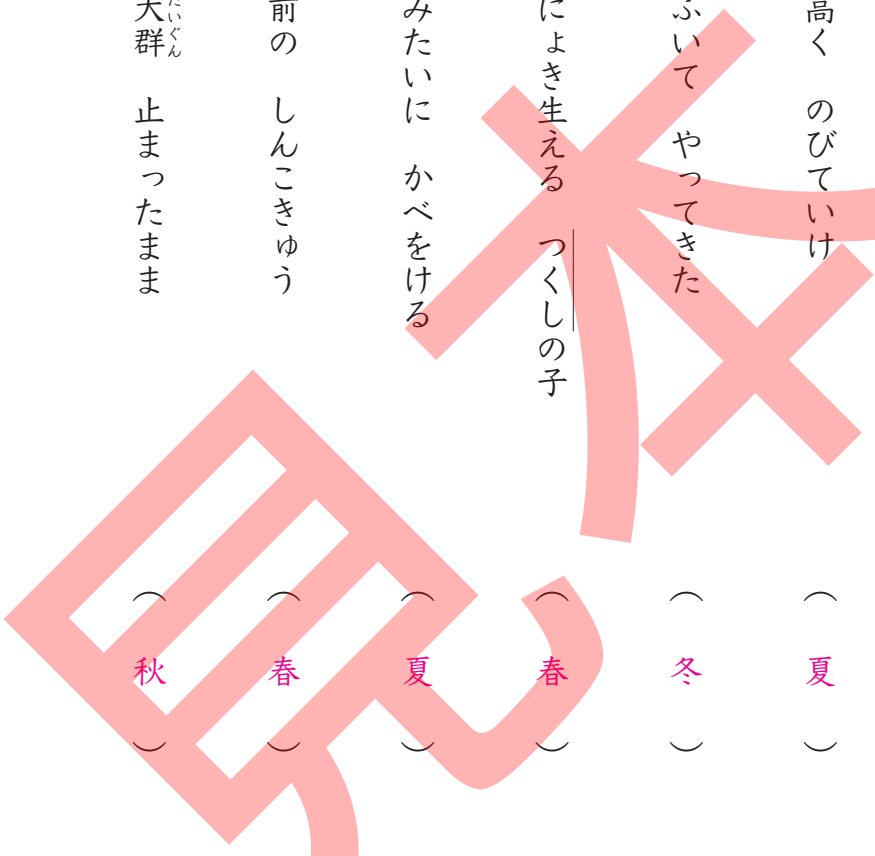
2 北風が くちぶえふいて やつてきた (冬)

3 川の土手 によきによき生える つくしの子 (春)

4 初泳ぎ ロケットみたいに かべをける (夏)

5 入学式 はじまる前の しんこきゆう (春)

6 柿落ちる アリの大群 止まったまま (秋)



※基本的に、季語は一句に一つだけであることをおさえる。
 ※4〜6のような「字余り」の俳句もある。(「字足らず」もおさえるとよい)

さんこうにしよう



NHK for School
 お伝と伝じろう
 「今日は句会」





※このマークのところは、単元のオリエンテーションとして扱い、一人で学習するところです。

七 くわしく表す言葉

【教科書(下) P108~P109】

※飾りがつくると詳しい文になることに気づかせる。

〈れい〉 花が さいた。

赤い花が さいた。

花が きれいに さいた。

右のれい文を見ましよう。「赤い」は、「花」がどんな様子かをくわしく表しています。また、「きれいに」は、「どのように」の言葉をくわしく表す言葉をからえらび、()に書きましよう。

1 白 い たてものが 見える。

2 すずしい 風が ふく。

3 かんたんな 問題を とく。

4 赤ちゃんが すやすや

5 雨が ザーザー

6 とびうおが 高く

かんたんな すずしい 白い

すやすや 高く ザーザー



(一) 次の文から主語とじゅつ語をさがし、主語は――、じゅつ語は――を引きましょう。

1 弟が おかしを 食べる。

2 ひなたで 犬が すやすや ねる。

3 彼の 話は いつも おもしろい。

4 姉が たくさんの 折り紙を わたしに くれた。

(二) 次の文からくわしく表す言葉をさがし、――を引きましょう。

1 赤い チューリップの 花が さく。

2 彼の えんぴつが つくえから 落ちる。

3 木の 上に とても きれいな 鳥が いる。

4 わたしは きのお 大人気の 映画を 見に行った。



やってみよう



「主語と述語、しゅうしょく語」

まずは、主語とじゅつ語を
たしかめるんだね。それから
「何を」「何に」「や」「いつ」
「どこで」「どのように」と
いったくわしく表す言葉を
たしかめてみよう。



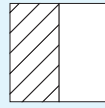


八 漢字の組み立てと意味

【教科書（下） P128～P129】

※漢字の構成について基礎的な理解をさせる。
※形声文字には、その字の音を表す部分があることを意識させる。
読み方（音読み）は、おおよその見当をつけることができることを理解させる。

漢字は、いろいろな意味や読み方を表す部分で組み立てられています。その組み立てのもとになる部分を部首といいます。部首は二百あまりもありますが、それらをいちによってなかま分けすると、次の七つに分けることができます。

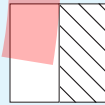


へん

〈れい〉

校

（きへん）

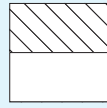


つくり

〈れい〉

頭

（おおい）

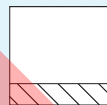


かんむり

〈れい〉

花

（くさかんむり）

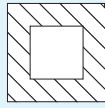


あし

〈れい〉

急

（こころ）

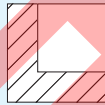


かまえ

〈れい〉

国

（くにがまえ）

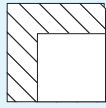


によう

〈れい〉

道

（しんによう
しんにゆう）



たれ

〈れい〉

広

（まだれ）

一つ一つの部首には、それぞれに名前がついています。これを知っていれば、漢字をおぼえたり、せつ明したりするときにはべんりです。



(一) 次の の中に、漢字を書きましよう。

※部首と漢字の意味の関連に気づかせる。

1 お日さまが出て、

晴 は

れになる。

2 明日のお

昼 ひる

はピクニックに行こう。

3 お日さまが出て、

明 あか

るくなる。

4 今日はとくに

暑 あつ

くなる。

「日」のつく漢字には、お日さまにつながるのある漢字が多いことが分かります。

5

海 うみ

には、水がたくさんある。

6 水の中を

泳 およ

ぐ。

7 大きな水たまりが、

池 いけ

になりました。

8

船が 波 なみ

を立てる。

「シ」のつく漢字には、水につながるのある漢字が多いことが分かります。



(二)

次の部首のつく字を左からえらび、に書きましょう。

※漢字を部首により識別する能力を育て、漢字の読み書きの力をのばす。

| | | | | | |
|-----|------|------|------|-----|------|
| | | | | | へん |
| 日 | 言 | シ | 禾 | 木 | イ |
| ひへん | ごんべん | さんずい | のぎへん | きへん | にんべん |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 明 | 記 | 海 | 秋 | 村 | 作 |
| 暗 | 計 | 汽 | 科 | 板 | 係 |

| | | | | | |
|-------|--------|--------|------|--------------|-----|
| | | かんむり | | | つくり |
| 宀 | 艹 | 木 | 頁 | 攴 | 欠 |
| うかんむり | くさかんむり | たけかんむり | おおがい | のぶん ぼくづくり | あくび |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 家 | 茶 | 算 | 顔 | 放 | 歌 |
| 室 | 葉 | 答 | 頭 | 教 | |



※ここには載せていないが、「空」の部首は「穴」、「聞」の部首は「耳」、「問」の部首は「口」のように部首を間違いやすいものもあるので注意する。

| | | |
|---|---|---|
| 板 | 暗 | 記 |
| 店 | 広 | 作 |
| 思 | 放 | 明 |
| 頭 | 週 | 歌 |
| 計 | 算 | 点 |
| 室 | 家 | 秋 |
| 茶 | 海 | 原 |
| 科 | 起 | 意 |
| 答 | 係 | 回 |
| 凶 | 通 | 村 |
| 葉 | 教 | 顔 |
| 汽 | 開 | 間 |

6

かまえ

あし

もんがまえ

くにがまえ

こころ

れんが

れつか

7

たれ

によう

がんだれ

まだれ

そうによう

しんにゆう

しんにゆう

原

広

起

週

店

通



(9) いろいろなローマ字を練習してみましよう。

Handwriting practice lines consisting of multiple sets of horizontal lines. Each set includes a solid top line, a dashed midline, and a solid bottom line. The lines are spaced evenly down the page.





パソコン^{つか}を使うとき

- ① ローマ字の書き方が2つあるものは、どちらのやり方でも入力できます。
※ 訓令式 **si**、ヘボン式 **shi**

し… **S I** または **S H I** ち… **T I** または **C H I**

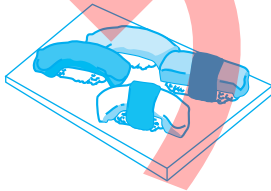
ふ… **H U** または **F U**

- ② 「ぢ」「づ」「を」「ん」などは、次のように入力します。

ぢ… **D I** づ… **D U** を… **W O** ん… **N N**

(8) 次のローマ字の読み方が同じものを二つえらんで○をつけましょう。

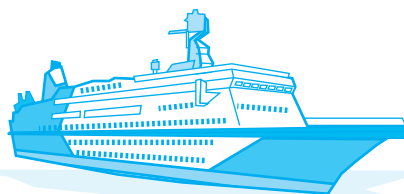
- ① syo **shi** sha **si**
- ② suki **sushi** **susi** sumi
- ③ **miti** mati **michi** mochi
- ④ futa fune **fuku** **huku**



練習してみよう



プレイグラムタイピング
「タイピングれんしゅう」



(5) 次のひらがなをローマ字で書きましょう。 ※ P.35の青枠①～④を確かめながら指導する。

- ① きょうりゅう kyōryū ② おもちや omotya
(omocha)
- ③ らっぱ rappa ④ ほんや hon'ya



ローマ字のきまり (2)

- ① ローマ字では、人の名前や土地の名前を書くときに、さいしょの文字を大文字で書きます。

Noguti Hideyo = ^{のぐちひてよ}野口英世

- ② ローマ字表の〔 〕のようなつづりで書くことがあります。

Fukushima = ^{ふくしま}福島 Kōchi = ^{こうち}高知

Hu → Fu si → shi ti → chi

※ きまりにはまらない場合があります。

(6) 自分の名前をローマ字で書いてみましょう。 ※ ローマ字は英語ではないので、氏・名の順に書く。

(7) 自分の学校の名前をローマ字で書いてみましょう。

※ 教科書上P.88 (2) を参考にしながら、nと母音が続く場合の' (アポストロフィ) の指導に留意する。





ローマ字のきまり (1)

① のばす音は、^{ほいん}へのしるしをのばしたい音の母音の上につけます。

※長音
おばさん = **obasan** → おばあさん = **obâsan**

ローマ字 = **rômazi**

② 小さい「や・ゆ・よ」のつく音は、^{ほいん}母音と^{しいん}子音の間に **y** を入れます。
※拗音

でんしゃ = **densya** ちやわん = **tyawan(chawan)**

③ 小さい「つ」のつく音は、「つ」を入りたい場所のすぐあとの^{しいん}子音を二つ書きます。
※促音

にっし = **nissi** きて = **kitte**

④ 「,」は、切るしるしとして使います。

パンや = **pan'ya**

※ 'がないと **panya** (パニャ) と読める。

(4) 次の^{つぎ}ローマ字を読んでみましょう。

① **kôrogi** (**こおろぎ**)

② **imôto** (**いもうと**)

③ **syasin** (**しゃしん**)
(shin)

④ **tosyokan** (**としょかん**)

⑤ **nikki** (**にっき**)

⑥ **roketto** (**ロケット**)

⑦ **gin'iro** (**ぎんいろ**)

⑧ **zen'in** (**ぜんいん**)

⑨ **kyûsyoku** (**きゅうしょく**)

⑩ **yakyû** (**やきゅう**)

⑪ **otôto no hon** (

おとうどのほん)





ローマ字を書くときに気をつけることは、字を書くいちです。
練習れんしゅうをするときには、4本の線に書きます。多くの文字は、上から2本目と3本目の間に入りますが、中にはいちばん上の線や、いちばん下の線まで出るものもあります。高さや長さに気をつけて書きましょう。

(3) 次のひらがなをローマ字で書きましょう。

① あお

ao

② いえ

ie

③ すし

susi (sushi)

④ たこ

tako

⑤ はる

haru

⑥ まめ

mame

⑦ やね

yane

⑧ ろば

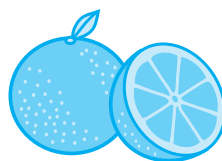
roba

⑨ おんぷ

onpu

⑩ みかん

mikan





ローマ字の五十音は、^ア **a**・^イ **i**・^ウ **u**・^エ **e**・^オ **o** という母音と、^{ぼいん} **k**・**s**・^{しいん} **t**・**n**・**h**・**m**・**y**・**r**・**w** という子音を組み合わせで作られています。

(「あいうえお」は母音だけでできています。)

子音は、五十音の表で行を表します。母音は、段を表します。たとえば、「す」は「サ行・ウ段」ですから、サ行を表す「**s**」と、ウ段を表す「**u**」を組み合わせた「**su**」と書きます。

「ん」は、この組み合わせの中には入らず、「**n**」^{あらわ}だけで表します。

※ 最終ページのローマ字表を見せながら説明するとよい。

※ ローマ字を学習するためには母音と子音の組み合わせが大切であることを指導する。

(1) 次のローマ字を読んで、() の中に書きましょう。

① **taki** (**たき**)

② **kawa** (**かわ**)

③ **sumire** (**すみれ**)

④ **himawari** (**ひまわり**)

⑤ **yakiniku** (**やきにく**)

⑥ **minomusi** (**みのむし**)
(shi)

⑦ **sakanaturi** (**さかなつり**)
(tsu)

⑧ **sinkansen** (**しんかんせん**)
(shin)



ガ・ザ・ダ・バ行の音(だく音)^{おん}も、五十音と同じように、^{ぎょう} **g**・^{あらわ} **z**・^{しいん} **d**・^{あらわ} **b** の行を表す子音と、^{だん} **a**・^{あらわ} **i**・**u**・**e**・**o** という段を表す母音の組み合わせで表します。

また、パ行の音(半だく音)^{はん}は、^{おん} **p** と **a**・**i**・**u**・**e**・**o** という段を表す母音の組み合わせで表します。

(2) 次のローマ字を読んで、() の中に書きましょう。

① **hige** (**ひげ**)

② **bingo** (**ビンゴ**)

③ **daruma** (**だるま**)

④ **zarigani** (**ざりがに**)

⑤ **soroban** (**そろばん**)

⑥ **sanpo** (**さんぽ**)



9 ローマ字 【教科書 (上) P89(1)~P84(6) (下) P37, P36, P164】

日本語の書き言葉には、漢字、かな文字のほかにローマ字があります。
ローマ字の仕組みを調べてみましょう。
左のローマ字表を見て、正しく書く練習をしましょう。

| | (大文字) | ア段 | イ段 | ウ段 | エ段 | オ段 | (ヤ) | (ユ) | (ヨ) |
|-------|-------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| (大文字) | A | I | U | E | O | | | | |
| ア行 | a | i | u | e | o | | | | |
| カ行 | K | k | | | | | | | |
| サ行 | S | s | | | | | | | |
| タ行 | T | t | | | | | | | |
| ナ行 | N | n | | | | | | | |
| ハ行 | H | h | | | | | | | |
| マ行 | M | m | | | | | | | |
| ヤ行 | Y | y | | | | | | | |
| ラ行 | R | r | | | | | | | |
| ワ行 | W | w | | | | | | | |
| ン | N | n | | | | | | | |
| ガ行 | G | g | | | | | | | |
| ザ行 | Z | z | | | | | | | |
| ダ行 | D | d | | | | | | | |
| バ行 | B | b | | | | | | | |
| パ行 | P | p | | | | | | | |

※ローマ字の仕組みを理解させる。(拡大して練習用に使用するとよい。)



Rômazi no hyô

| | ア段 A | イ段 I | ウ段 U | エ段 E | オ段 O | (ヤ) | (ユ) | (ヨ) |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|-------|-------|-------|
| ア行 | a | i | u | e | o | | | |
| カ行 | K ka | ki | ku | ke | ko | kya | kyu | kyo |
| サ行 | S sa | si | su | se | so | sya | syu | syo |
| タ行 | T ta | ti | tu | te | to | tya | tyu | tyo |
| ナ行 | N na | ni | nu | ne | no | nya | nyu | nyo |
| ハ行 | H ha | hi | hu | he | ho | hya | hyu | hyo |
| マ行 | M ma | mi | mu | me | mo | mya | myu | myo |
| ヤ行 | Y ya | (i) | yu | (e) | yo | | | |
| ラ行 | R ra | ri | ru | re | ro | rya | ryu | ryo |
| ワ行 | W wa | (i) | (u) | (e) | (o) | | | |
| ン | N n | | | | (wo) | | | |
| ガ行 | G ga | gi | gu | ge | go | gya | gyu | gyo |
| ザ行 | Z za | zi | zu | ze | zo | zya | zyu | zyo |
| ダ行 | D da | (zi) | (zu) | de | do | (zya) | (zyu) | (zyo) |
| バ行 | B ba | bi | bu | be | bo | bya | byu | byo |
| パ行 | P pa | pi | pu | pe | po | pya | pyu | pyo |

※ローマ字の読み方や書き方について知らせ、ローマ字に親しませる。
 ※〔 〕内はヘボン式の表記です。中学の英語では主となる表記です。

令和6年度版 ことばのきまり 3年

編集 「ことばのきまり」編集委員会
 三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
 〒444-0868 岡崎市明大寺町馬場東170番地1
 電話 0564-51-4819

印刷 株式会社 岡田印刷

※無断で複写・複製することを禁じます。

※外部ホームページリンク先は、予告なく変更・削除されることもあります。





名 前

年

組

見本